

カーボンニュートラルへ向けた産業支援事業企画運營業務委託仕様書

1 事業名

カーボンニュートラルへ向けた産業支援事業企画運營業務

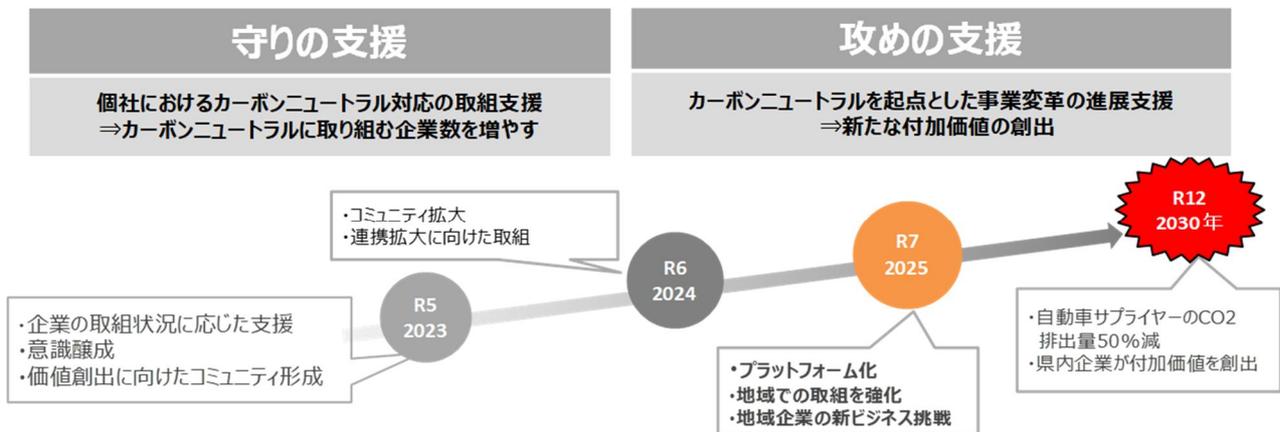
2 業務委託期間

契約締結の日から令和8年3月31日までとする。

3 事業の目的

「カーボンニュートラルへ向けた産業支援事業」（以下「本事業」という。）は、カーボンニュートラルに積極的に取り組む製造事業者をはじめとする県内企業を増加させ、その活動を支援することにより、着実にカーボンニュートラル対応を進めるとともに、カーボンニュートラルを起点とした付加価値創出を実現させることを目指している。

[支援の概念図]



4 事業の目標

本事業の目標を次のとおり定める。

目標
○地域におけるカーボンニュートラル実現に向けたプラットフォームを形成し、県内企業がカーボンニュートラルを成長機会として捉え、他の事業者とともに競争優位性の確保や新事業機会の創出に取り組む仕組み・仕掛けが構築できている状態を目指す。

5 委託業務の内容

カーボンニュートラルの実現に向けたプラットフォーム形成に向け、次の視点を軸に取組全体の組立てを行い下記（１）～（４）の業務を実施すること。

【視点】

- ・ 県内製造事業者やソリューション事業者など『企業・団体』等の交流の場の構築
- ・ 県内外の先進的な事例や他団体の活動内容など『情報』が集約されたポータルサイトの構築
- ・ 官民が一体となったカーボンニュートラルの取組を活性化させる仕組みの構築

- (1) ワークショップ・勉強会などコミュニティ形成に向けた取組・モデル化創出実証
(先進事例・具体的なプロジェクトの創出)

県内企業の個社では解決が困難なカーボンニュートラルにかかる課題の解決を目的としたワークショップ・勉強会を開催し、その課題や解決策の整理を行うとともに、カーボンニュートラルを起点とした新たな付加価値創出につながる実証事業を行い、課題解決に向けた当該モデルの構築に必要な支援を行うこと。

ア ワークショップ・勉強会については、県内製造事業者を中心に、エネルギー事業者やサービス事業者等を含めた多様な事業者が議論に参画できる場とし、企業間のマッチングの促進に繋がるものとする。

イ 個社では解決が困難であり、業種を問わず連携が必要となる課題について、県内企業の関心の高いテーマを3つ以上設定し、各テーマ3回以上開催をすること。なお、設定するテーマについては、広島県と協議の上決定するものとする。

ウ 上記イのワークショップ・勉強会で設定したテーマのうち、1つ以上の実証を行うこと。

エ 上記イ及びウの参画企業については、幅広い業種又は課題解決に寄与する複数の企業からの参画が得られるよう、効果的な募集・周知を行い、参加企業を確保すること。

オ 開催に当たっての事前準備としては、多様なプレイヤーによる創造的な対話が可能な場となるよう、各参画企業において事前に準備が必要な事項については、参画企業の相談に応じて必要な支援・アドバイスも合わせて行うこと。

カ 実証を行うに当たっては、実証事業へ参画する企業と調整し、本事業の委託料の範囲で必要な支援（再委託を含む。）を行うこと。この委託料の範囲で行う支援については、受託事業者は、あらかじめ広島県の承諾を得るものとする。

キ ワークショップ・勉強会及び実証事業において求める課題・解決策の整理の各水準については以下の状態としておくこと。

- ・ワークショップ・勉強会においては、本事業又は次年度以降において、モデル化創出実証を行うことのできる状態であること。
- ・実証事業で獲得したノウハウや知見及びその取組を進める上での課題等の整理と今後の方向性などについてとりまとめ、効果的な展開手法により県内企業に対し、横展開できている状態としておくこと。

(2) ポータルサイト掲載のコンテンツ作成

県内企業がカーボンニュートラル対応の必要性を認識し、取組を開始する意欲を高められるような初動支援コンテンツの整備・更新を行うとともに、補助金情報の提供やマッチングの促進などカーボンニュートラルの取組を更に加速化させるためのコンテンツの作成を行うこと。

ア 広島県が令和5年度に立ち上げたウェブサイト「ひろしまものづくりカーボンニュートラルプロジェクト」(<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/cnproject/>)に掲載している、初動支援に係るコンテンツの更新・整備及び必要に応じた新たなコンテンツの拡充を行うことで、企業の取組を加速化させること。

- ・このウェブサイトは令和7年度において広島県で別に準備するサーバ上に移管する予定であり、システムの運用・保守は広島県の責任・負担で行う。
- ・このウェブサイトの更新作業は別で委託予定の事業者が行うため、業務受託者は、広島県の指定する方法によりコンテンツの提供を行うものとする。
- ・初動支援に係るコンテンツの更新・整備（月2回以上）及び、必要に応じた新たなコン

テンツの拡充を行うことで、本事業の活動や国や地方自治体、支援機関などの補助金の情報などをリアルタイムに発信し、企業の取組を加速化させること。

- ・令和6年度までに整備したガイドライン・学習動画・お役立ち情報（補助金等のリンク）との整合性を図ること。

（3）地域独自の取組を活性化させる仕組み作り

県内企業の主体的な活動を促すため、官民が一体となり、企業のカーボンニュートラルに向けた取組を活性化させる仕組みを構築すること。

- ア 仕組みの構築に当たって検討の座組を構成する必要がある場合は、参画するメンバーを集め、上記（1）のワークショップ・勉強会のテーマの1つとして設定しても良い。
- イ 本事業又は次年度において、実証・実装できるよう関係企業や団体との調整を行うこと。
- ウ 構築する動機付けの仕組みについては、取組例として以下のものを参考とし、県内企業の特性・動向を踏まえたものとする。

【取組例】

- ・企業の投資を促進する仕組みの構築
（広島版のカーボンクレジットやサステナブルファイナンスの枠組み）
- ・新規事業の創出やそのための人材育成に繋がる仕組みの構築（大学との連携等）
- ・企業のブランディングに繋がる仕組みの構築（企業PRの場の構築等） など
- エ 仕組みの構築に当たっては、上記（2）のポータルサイトとも連動したものとし、より効果的に機能させるために必要となるコンテンツについては作成し、掲載を行うこと。

（4）令和8年度以降の運営計画等の策定

今後のプラットフォームの高度化および定着に向けて、更なる企業間連携の促進や情報の集約などに繋がる仕組み・仕掛けについての仮説を立て、当該仮説の検証を行いながら、令和8年度以降の運営計画を策定すること。

- ア 上記（1）～（3）の取組を踏まえ、年度当初において、カーボンニュートラルを起点とした新たな付加価値創出につながる枠組み構築に向けた仮説を立てること。
- イ 上記アの仮説について本事業の実施を通じて検証を行い、必要に応じて見直しを行うこと。
- ウ 上記ア及びイの進捗状況について、10月中旬までに広島県に対し、中間報告を行い、以後の進め方について協議及び必要な見直しを行うこと。
- エ 年度末までに、これまでの検討状況を踏まえ、令和8年度以降のプラットフォーム運営のための計画を策定すること。

（5）その他

- ア 上記の業務が連動した実施計画（業務全体のスケジュールを含む。）を設計すること。当該実施計画は、本業務の開始後速やかに広島県へ提出するとともに、月1回定例会を行い、月次で進捗の報告を行うこと。また会議等の開催時には議事録を作成し、県へ提出すること。
- イ 上記（1）のテーマ設定については、県内産業構造や課題を踏まえ、令和6年度までの取組と継続性のあるものとする。なお、業務の実施に当たっては、国、業界団体及び

- 自動車メーカー等における海外を含めた最新の動向や知見等を踏まえて行うこと。
- ウ 上記（１）の支援については、本事業の委託料に限らず、業務受託者のリソースや国事業（競争的資金等）を活用するケースも認める（ただし、競争的資金等を活用する場合、同一の経費内容については、委託費の対象とすることができない）。
 - エ 各参画企業において事前に準備が必要な事項（競争的資金等を活用する場合は、活用に必要な手続を含む。）については、個別での支援も合わせて行うこと。
 - オ コミュニティ形成に向けたワークショップ等の取組については、県内企業が主体的に取り組むよう仕掛けを構築すること。
 - カ 本業務を実施するために必要な体制を構築し、責任者、副責任者及び事務担当者等の業務所掌範囲について明らかにすること。
 - キ 本業務の運営に当たっては、広島県の方針に従うこと。
 - ク 本業務終了後も、地域企業、関係団体が継続して取り組めるコミュニティとすること。

6 実績報告

本業務の業務受託者は、業務を完了した日または業務期間終了後 10 日以内に実績報告書を県に提出すること。なお、実績報告書の構成等については、広島県と協議の上決定するものとする。

7 成果の帰属

（１）本業務により得られた成果は、原則として広島県に帰属する。ただし、業務受託者が従前より有する著作物又は第三者の著作物については、業務受託者又は第三者に帰属する。

（２）業務受託者は、本業務の実施のために必要な業務受託者が従前より有する著作権又は第三者の著作権については、当該著作権の利用に当たり、支障のないよう適切な措置を講じなければならない。また、何らかの著作権に係る問題等が生じた場合、業務受託者の責任により対処する。

8 留意事項

（１）業務受託者は、県と連絡調整を十分に行い、円滑に業務を実施すること。

（２）カーボンニュートラルに関して企業が抱える課題や取り巻く環境が異なる中で、実情に応じて柔軟に対応すること。

（３）業務受託者は、業務実施過程で疑義が生じた場合は、速やかに県に報告し協議を行い、その指示を受けること。

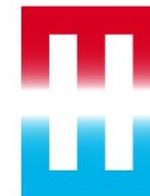
（４）業務受託者は委託業務上発生した障害や事故については、大小に関わらず県に報告し指示を仰ぐとともに、早急に対応を行うものとする。

（５）委託業務の一部を再委託しようとする場合は、次の点を明確にして、予め県の承諾を得ること。

- ア 再委託する業務の範囲
- イ 再委託の合理性および必要性

- ウ 再委託先の業務履行能力
- エ 再委託業務の運営管理方法

(6) その他、本契約の範囲内において、この仕様書に記載のない事項については、関係者において協議し、決定する。



元気、
美味しい、
暮らしやすい
ENERGY OF PEACE
ひろしま



(参考資料)
カーボンニュートラルへ向けた
産業支援事業企画運営業務委託仕様書

令和7年2月
広島県 商工労働局イノベーション推進チーム

背景・課題

- 世界的なカーボンニュートラルに向けた動きは加速化しており、CO2算定に当たっての国際的な標準ルールの策定や情報の受け渡しを行うデータ連携基盤の構築が進められている。
- CO2の算定については、自社レベルの算定から製品レベルの算定へ難易度も上がってきており、1社単位で解決できる課題ではなく、企業間での連携が一層求められてきている。
- 欧州電池規則（2025年～）や国境炭素調整措置（2026年～）などの法規対応も求められており、特にEVを扱う自動車関連企業にとっては当該法規への対応は急務な状況となっている。

必要な対応

- 企業の取組レベルに応じた支援策を段階的に整備していくとともに、法規対応のように複数企業が連携し、算定手法・体制の整備が必要なものについては、実証などを通じてモデル化を図り、県内企業への横展開をし、対応を加速していく必要がある。

目標達成に向けたプロセス（2030年までのロードマップ）

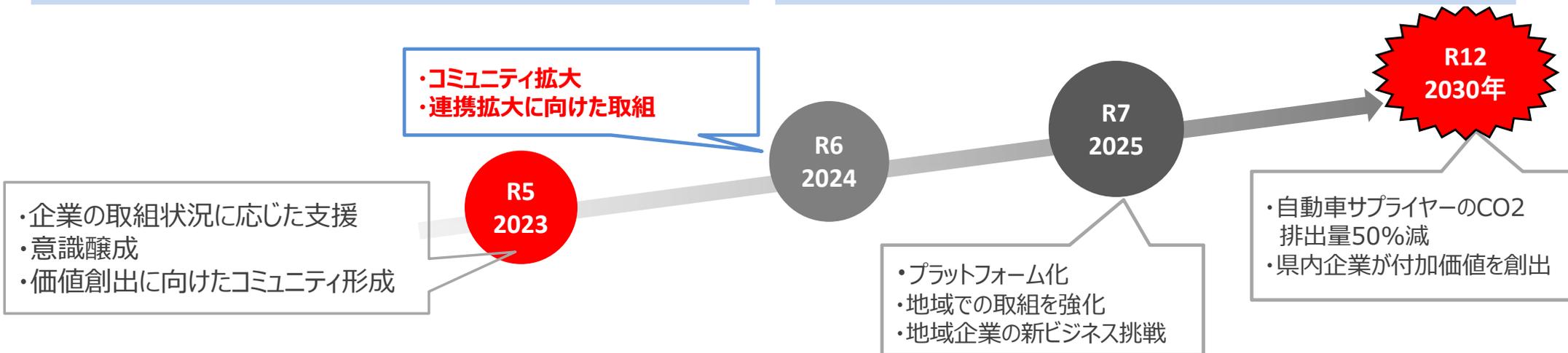
- 2025年まではCO2排出量削減を中心とした守りの支援により、事業変革に向けた要件を備える。
- 2025年以降は事業変革を進展させる攻めの支援を展開することとし、その基盤となるプラットフォームを形成して取組を加速する。
- 2030年までにカーボンニュートラルを起点とした事業変革を実現させる。

守りの支援

個社におけるカーボンニュートラル対応の取組支援
⇒カーボンニュートラルに取り組む企業数を増やす

攻めの支援

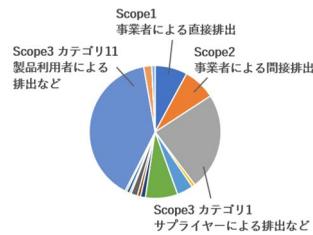
カーボンニュートラルを起点とした事業変革の進展支援
⇒新たな付加価値の創出



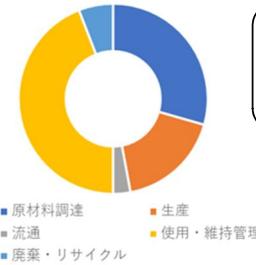
2023年度（～令和5年度）の取組みサマリー

個社支援（令和4,5年で合計40社を支援）を中心としつつ、
以下5つの取組みを同時並行的に実施し、コミュニティ形成の足掛かりとした

ものづくり企業20社の 伴走支援



CFP算定のための 企業合同ワークショップ



学習コンテンツ作成



一広島県内ものづくり企業向け
カーボンニュートラルに
向けた取組ガイドライン



2024年1月

広島県

セミナー開催



コミュニティサイト構築

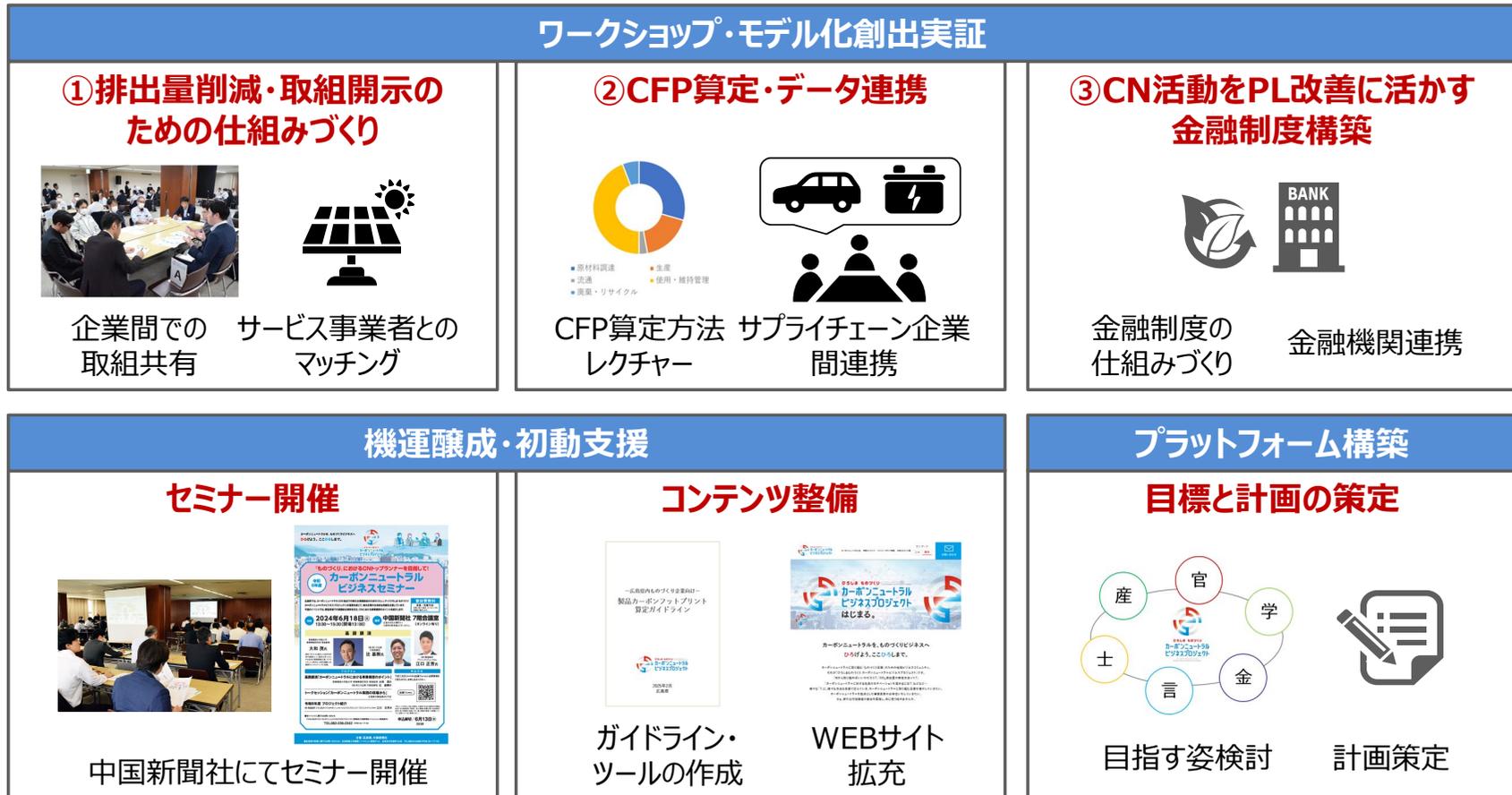


カーボンニュートラルを、ものづくりビジネスへ
ひろげよう、ここから。



2024年度（令和6年度～）の取組みサマリー

企業間連携により、カーボンニュートラル実現に向けた課題解決を図り、
コミュニティの拡大、実証事例の創出を目指す



プラットフォーム構築の目的

**プラットフォーム経由でCN活動ノウハウ提供および企業間WS活動を促し企業マッチング支援をすることで、
県内製造事業者の競争力向上を図る。**

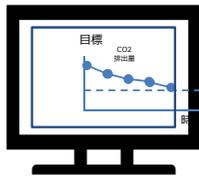
自社製品
環境価値の最大化

エネルギーコスト
最小化

人材・スキル
獲得支援



CO2排出量管理



排出量算定ノウハウの獲得と
一次データ取得による算定精度向上



削減施策	削減効果
省エネ設備の導入	エネルギーコスト削減
再生エネルギーの活用	CO2削減
業務プロセスの見直し	無駄の削減

削減施策リスト

削減施策	削減効果
省エネ設備の導入	エネルギーコスト削減
再生エネルギーの活用	CO2削減
業務プロセスの見直し	無駄の削減

企業事例集

企業コミュニティを活用した
CO2削減事例情報の獲得



地域開催のプロジェクト研究

山陰未来創造プロジェクト研究

官民5社の出資により設立した地域エネルギー会社を軸に山陰“発”の新事業創出を目指す

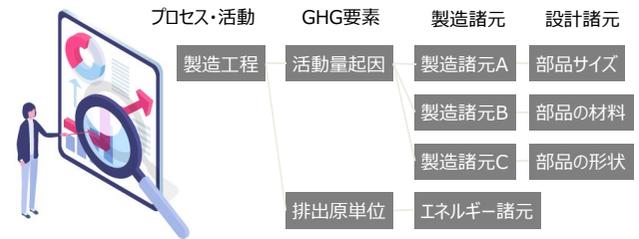
初年度は地域エネルギー会社役員企業を中心に個別に声かけで13名でスタート。次年度以降の参画も視野に運営には米子市職員も参加。大山沖のブランド化など、新たな取り組みを構想。プロジェクトは年度度ではなく継続的に取り組みとして、将来的には本学院（山陰校）設置も策定。

つくば新事業プロジェクト研究

つくばを拠点とする企業から研究員が参加
既存の延長線上ではない、新事業を構想

イチゴ新産業の構想例：季節外でのいちご生産に取り組み、田なかでのいちご狩り、6次産業化を模索。「水×樹しの新サービス」構想例：太陽光発電を活用した目の生産、6次産業化を構想

環境配慮製品開発を
通じた企業ブランドの向上

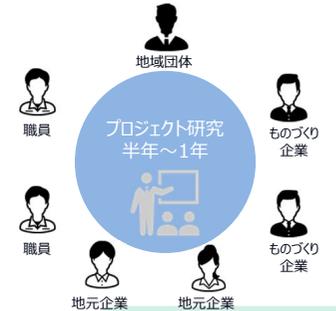


設計・製造諸元を基にした
CO2排出要因分析・削減施策検討



- ツールバンダー
- 省エネ設備メーカー
- 再生事業者

CO2削減に貢献できる
事業者とのマッチング



- 期待される効果(企業側)
- ✓ 新事業の創出
 - ✓ 事業構想力を備えた人材の育成
 - ✓ パートナーシップの構築
 - ✓ ESG投資による評価の獲得

新規事業活動を基にした
グリーンスキル、事業創出スキル向上

プラットフォームの提供する機能案（1）

		手段	
		リアル	Web
機能	環境価値の最大化 自社製品	<p>規制対応に必要な活動を支援するWS (バッテリーパスポート、CBAM、人権DD)</p> <p>高度なCO2削減施策の支援 (ICPの仕組みなど)</p>	<p>クレジット活用事例紹介の場</p> <p>一次情報取得から生産改善・DX活用まで見据えた事例紹介</p>
	最小化 エネルギーコスト	<p>脱炭素活動に取り組めてない企業に対する意識醸成の場</p> <p>省エネ機器導入や省エネ活用事例再エネ導入における事例紹介の場</p> <p>ソリューション事業者との企業マッチングを促す場</p>	<p>補助金活用事例紹介の場</p> <p>支援機関 など各ホームページから情報を相互発信する機能</p> <p>削減事例集の共有機能</p>
	獲得・支援 人材・スキル	<p>自社内の意識醸成をはかる場</p> <p>PR方法を教育する場 (youtubeなど個社メディア活用)</p>	<p>若者やスキルの高い求職者にアクセスできる場</p> <p>企業の脱炭素活動を事例紹介する機能</p>
		<p>規制要件 ガイドライン提供機能</p> <p>CO2算定 ガイドライン提供機能</p>	<p>補助金活用事例集 提供機能</p> <p>クレジット活用事例集 提供機能</p> <p>企業マッチングするためのソリューション企業の紹介機能</p> <p>企業マッチングするための問い合わせできる機能</p>

プラットフォームの提供する機能案（２）

テーマ	実施内容	分類
<div data-bbox="58 416 349 584">規制対応に必要な活動を支援するWS (バッテリーパスポート CBAM、人権DD)</div> <div data-bbox="421 416 696 552">一次情報取得から生産改善・DX活用まで見据えた事例紹介</div> <div data-bbox="763 416 1025 552">高度なCO2削減施策の支援 (ICPの仕組みなど)</div>	<p>県内企業が興味を有するテーマについて、ワークショップを開催</p>	<p>ワークショップ 実証</p>
<div data-bbox="230 616 472 775">省エネ機器導入や省エネ活用事例再エネ導入における事例紹介の場</div> <div data-bbox="595 647 913 743">ソリューション事業者との企業マッチングを促す場</div>	<p>ソリューション事業者増加活動</p>	
<div data-bbox="58 831 181 935">規制要件ガイドライン提供機能</div> <div data-bbox="197 831 416 903">CO2算定 ガイドライン提供機能</div> <div data-bbox="432 831 618 903">企業の脱炭素活動を事例紹介する機能</div> <div data-bbox="633 831 757 903">削減事例集の共有機能</div> <div data-bbox="772 831 931 903">クレジット活用事例集 提供機能</div> <div data-bbox="947 831 1106 903">補助金活用事例集 提供機能</div>	<p>ポータルサイトの構築 (コンテンツ拡充含む)</p>	<p>ポータルサイト 構築・運営</p>
<div data-bbox="185 1002 405 1106">支援機関 など各ホームページから情報を相互発信する機能</div> <div data-bbox="421 1002 696 1074">企業マッチングするためソリューション企業の紹介機能</div> <div data-bbox="757 1002 976 1074">企業マッチングするため問い合わせできる機能</div>	<p>運営・管理体制の構築</p>	
<div data-bbox="69 1137 472 1225">PR方法を教育する場 (youtubeなど個社メディア活用)</div> <div data-bbox="506 1137 819 1225">若者やスキルの高い求職者にアクセスできる場</div> <div data-bbox="853 1137 1088 1225">自社内の意識醸成をはかる場</div>	<p>取組み開示・企業PRの仕組みづくり</p>	<p>地域独自の活性化策</p>
<div data-bbox="376 1278 539 1366">補助金活用事例紹介の場</div> <div data-bbox="573 1278 759 1366">クレジット活用事例紹介の場</div>	<p>金融制度の構築</p>	

令和7年度の事業内容（案）

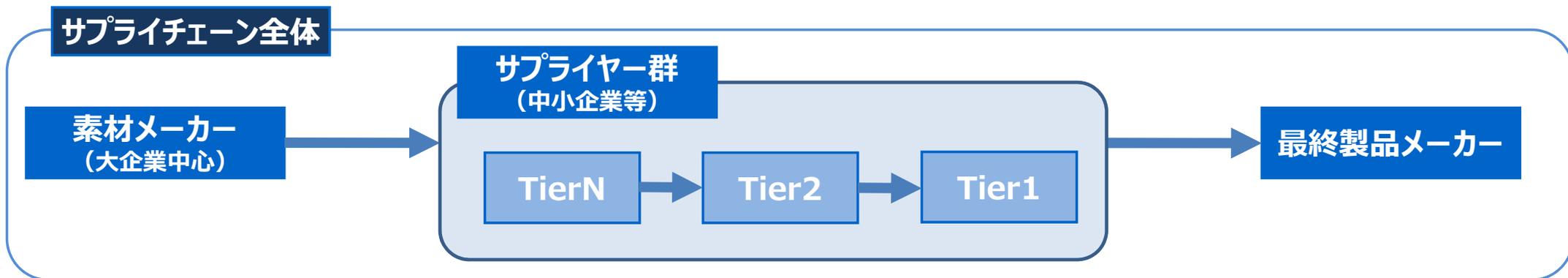
概要

- ✓ 県内製造業者に対し、サプライチェーン全体でのカーボンニュートラル実現に向けた取組等を支援することにより、カーボンニュートラルを起点とした県内企業の付加価値創出を目指す。
- ✓ 将来的に企業が業種を超え、自立してカーボンニュートラルに取り組むことができるよう、またそれに関連する新たなビジネスが生まれることを想定した仕組みを構築するため、令和7年度では次の事業を実施する。

視点	取組概要
ワークショップ・実証事業 (先進事例の創出)	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ・勉強会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 取組課題のうち企業等の連携が必要となるテーマを3つ以上設定し、ワークショップや勉強会等を開催することで、解決策の検討・企業マッチングを支援 ・実証・モデル化 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 課題整理や企業等のマッチングが実現した先進事例について、モデル化創出に向けた実証を行い、県内製造業者への横展開を目指す。
ポータルサイト構築・運営	<ul style="list-style-type: none"> ・初動支援に係るコンテンツの更新・整備 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 企業のカーボンニュートラル対応を加速させるオンラインコンテンツの更新・整備※ ※ 既存のコンテンツ（ガイドライン、お役立ちリンク等）および新たなコンテンツの拡充 ・ポータルサイトを外部サーバーで構築（現在は県HPを活用）
地域独自の活性化策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域独自の活性化策の検討 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 取組を加速化する上での動機付けとなる仕掛けや制度の検討 ・施策検討 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 次年度以降のCNへ向けた支援内容、実施体制の検討

プラットフォームの全体像（案）

- 2025年までに企業が主体的に取り組むことができる枠組み（プラットフォーム）の構築を目指す。

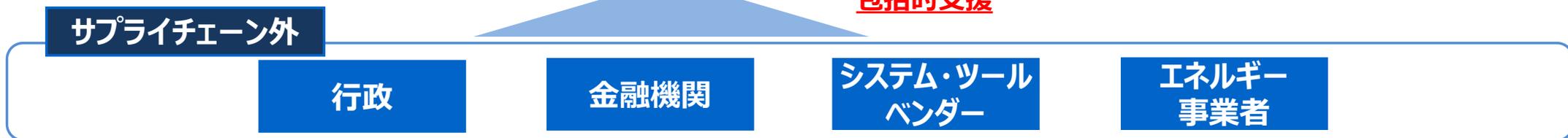


主体的取組



- ・課題解決
- ・モデル化（横展開）
- ・地域独自の仕組み

包括的支援



Appendix

1. CFP（見える化）算定ワークショップ・実証

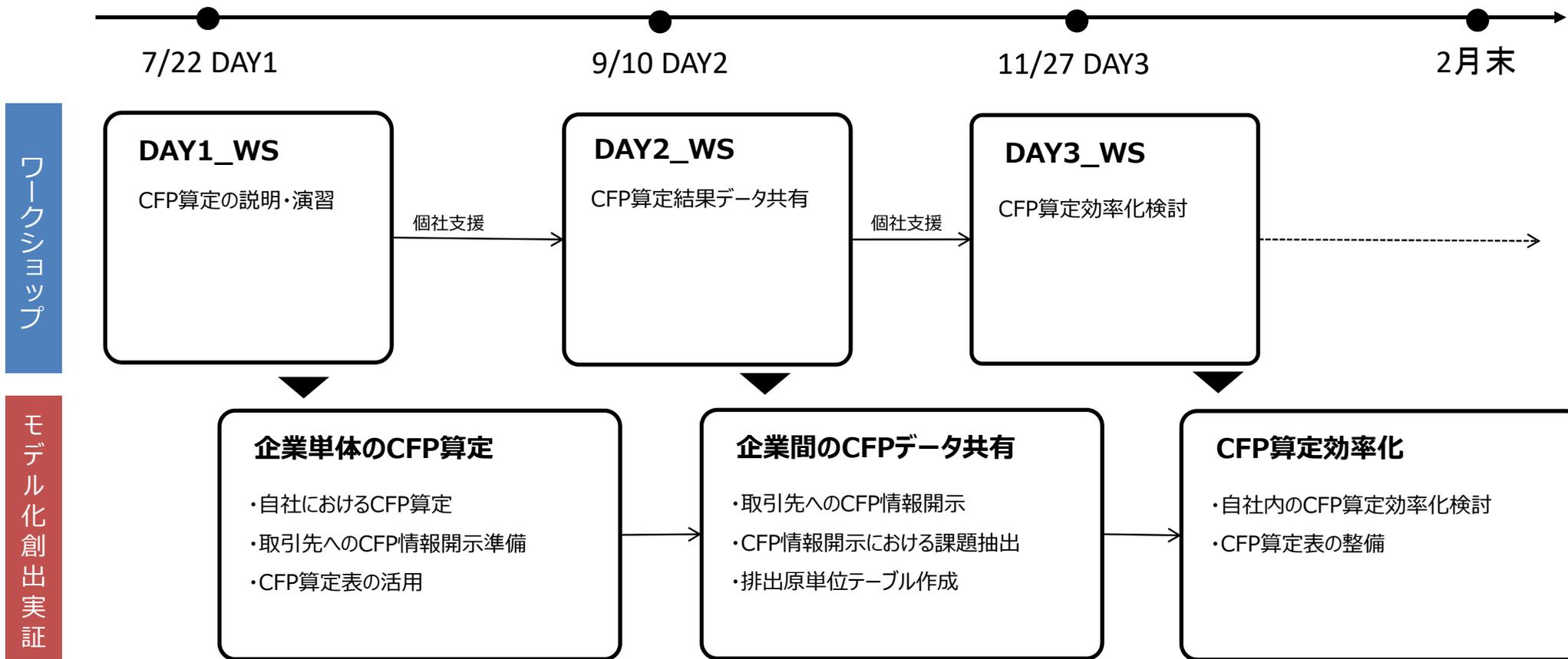
2. 削減ワークショップ

3. 金融（動機付け）ワークショップ

(参考資料) 令和6年度ワークショップ・実証の概要 (CFP算定)

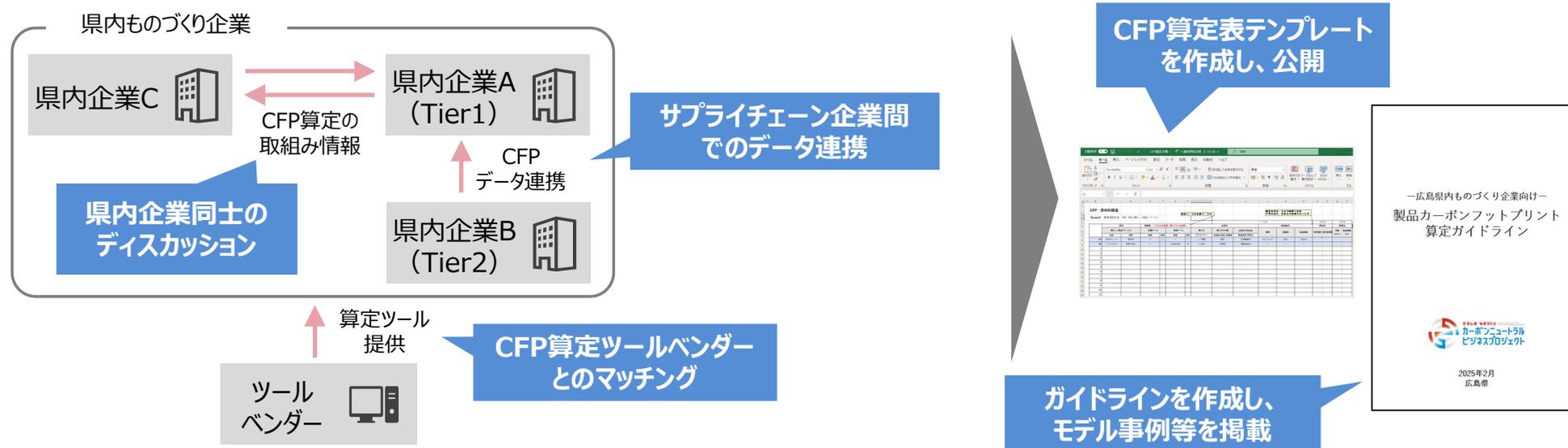
- 「CFP算定」のテーマでは、ワークショップおよび実証を通じて、算定表の整備や算定効率化の検討を実施。

- 活動概要** 対象 | 県内企業A社 + サプライチェーン上の企業
ゴール | CFP算定とデータ連携に向けた体制構築の準備ができる状態を目指す。



(参考資料) 令和6年度ワークショップ・実証の概要 (CFP算定)

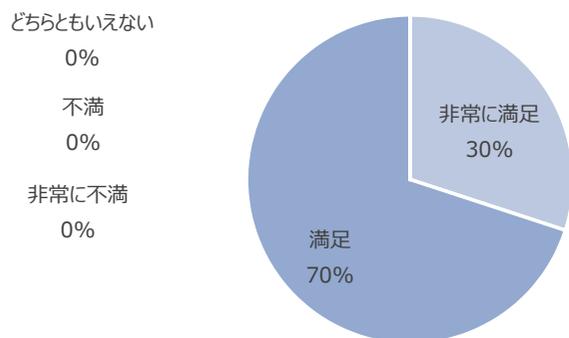
- 規制対応等を見据えて、CFPを算定し、企業間でデータ連携
- CFP算定に関する企業の声
 - ・ サプライヤーから一次データを取得して、CFPを算定したい
 - ・ CBAM (炭素国境調整措置) やデジタルプロダクトパスポート (DPP) 対応を視野に、CFP算定プロセスを早期に確立しておきたい
 - ・ CFP開示を通じて、自社のカーボンニュートラルに向けた取組みをPRしたい



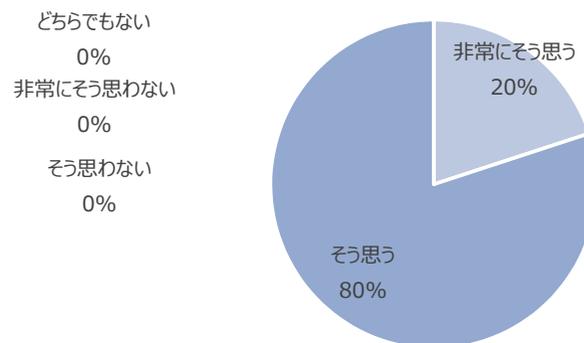
(参考資料) 令和6年度ワークショップ・実証のアンケート結果 (CFP算定)

- 企業間での情報共有ができたことで、CFP算定の理解促進や企業間のディスカッションに意義を感じていただいた。

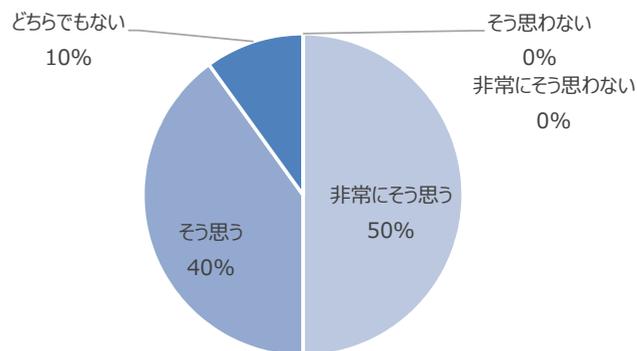
1 本日のワークショップに対する感想をお聞かせください



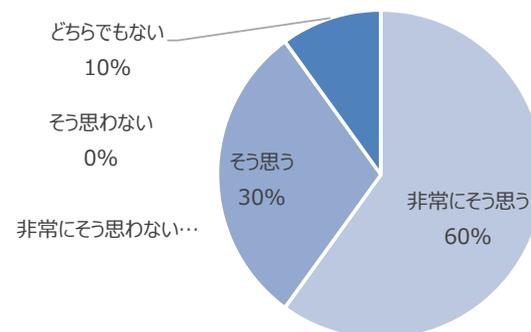
2 社支援・ワークショップを通じてCFP算定の理解は深まりましたか？



3 企業間で、CFPデータを共有することの重要性は感じましたか？



4 CFP算定について、自社以外の企業とのディスカッションは意義を感じましたか？



Appendix

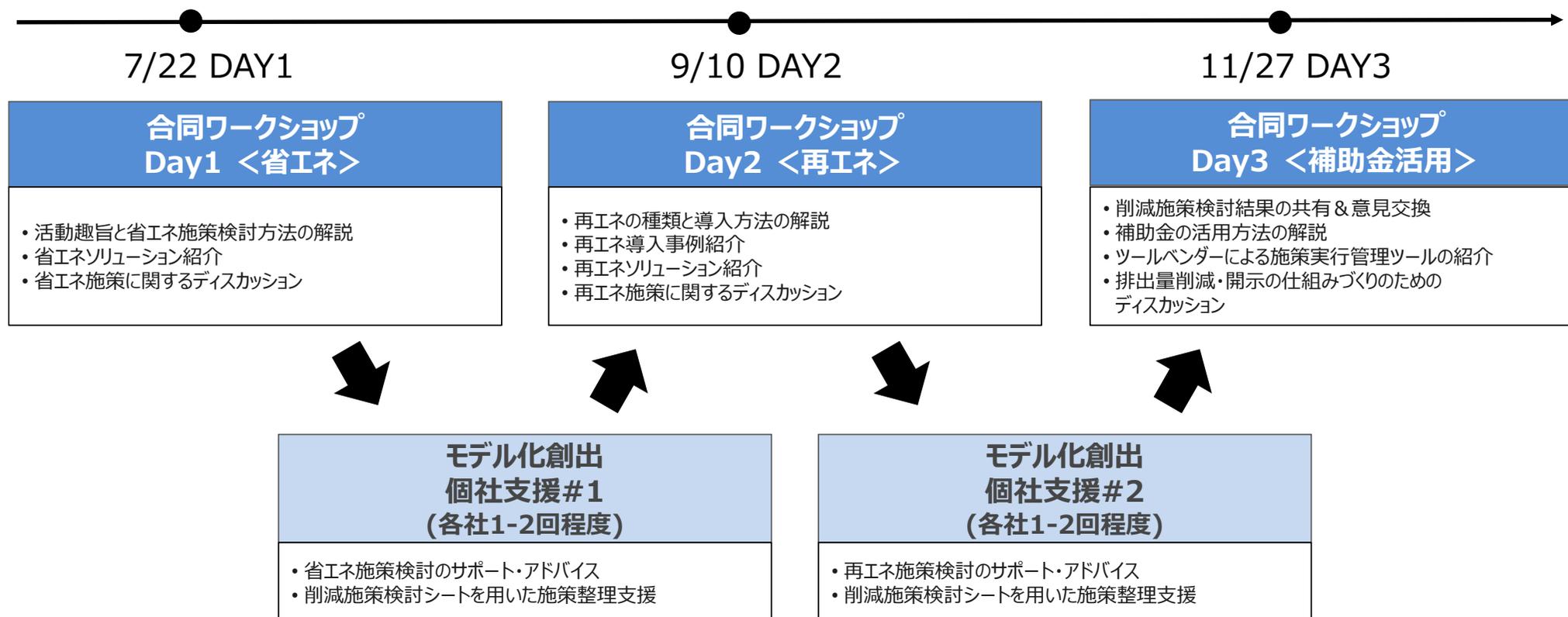
1. CFP（見える化）算定ワークショップ[°]・実証

2. 削減ワークショップ[°]

3. 金融（動機付け）ワークショップ[°]

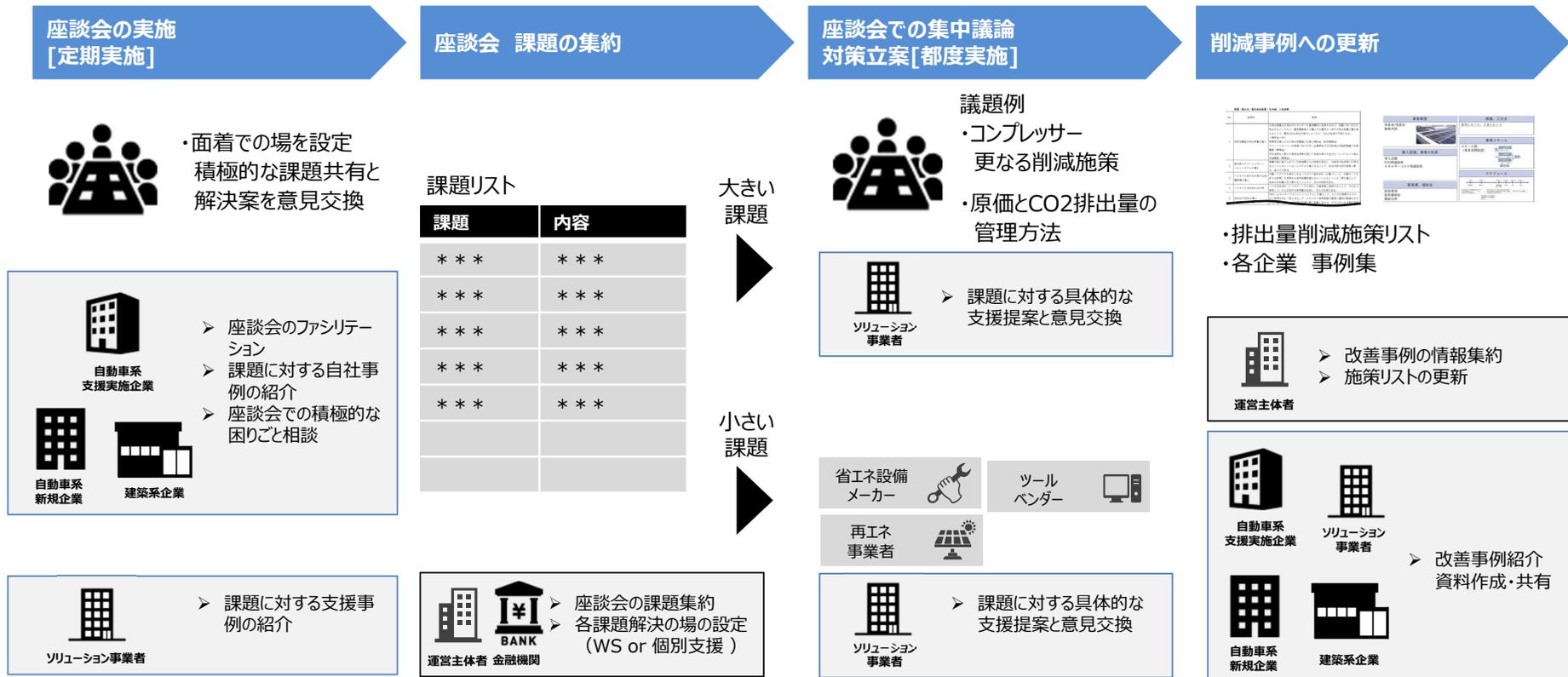
(参考資料) 令和6年度ワークショップの概要 (削減)

- 「削減」ワークショップでは、【省エネ・再エネ・補助金活用】の3つをテーマに各回で実施し、削減策等を整理。
- 活動全体像



(参考資料) 令和6年度ワークショップの概要 (削減)

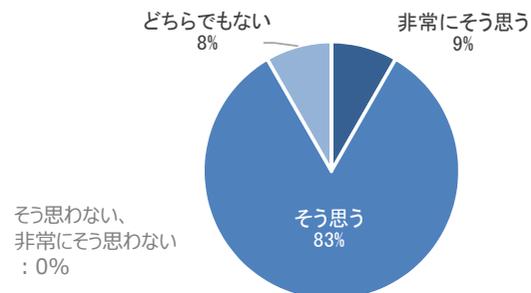
- 削減WS内では、座談会でできた課題リスト管理および企業マッチングを行い、課題解決を促進。



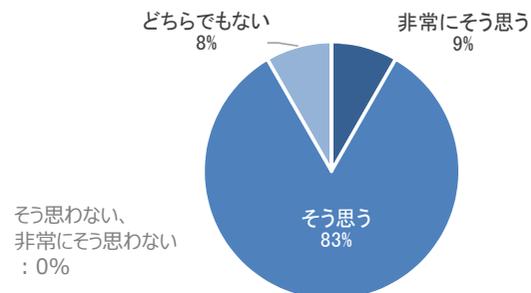
(参考資料) 令和6年度ワークショップのアンケート結果 (削減_省エネ)

- ディスカッションやソリューション紹介には9割以上が「参考になった」と回答。「他社事例や具体例をもっと聞きたい」との声もいただいた。

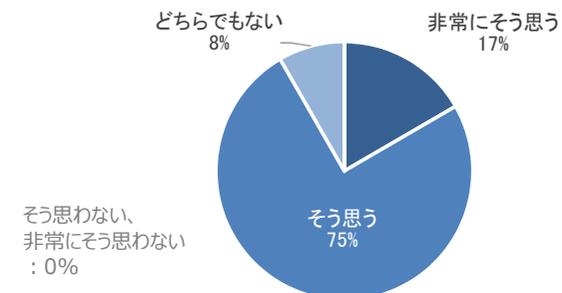
Q1. 本日のワークショップの参加目的は達成できましたか？



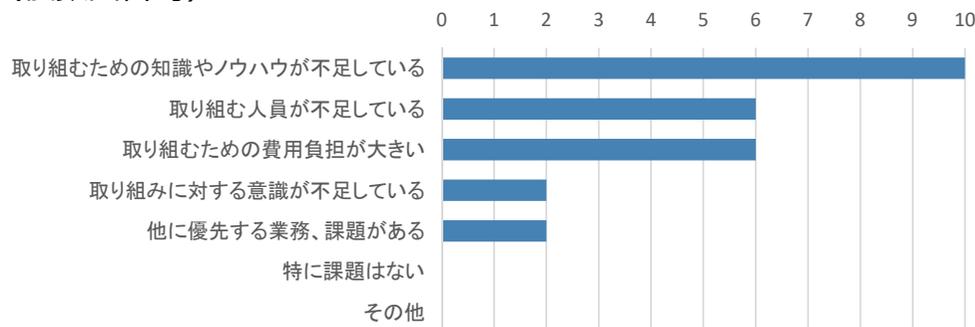
Q2. 省エネソリューションの紹介は今後の排出量削減の取組の参考になりましたか？



Q3. ディスカッションの内容は今後の排出量削減の取組の参考になりましたか？



Q4. カーボンニュートラルの取組を行う上での課題をお聞かせください (複数回答可)



参加者のコメント

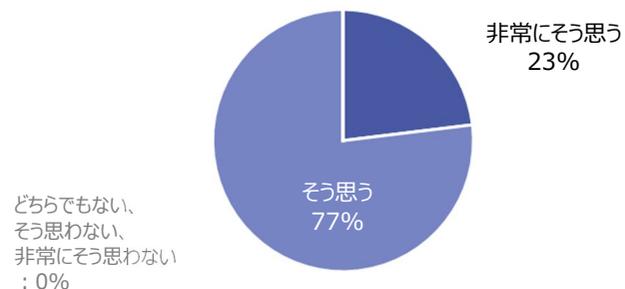
- 各企業の活動内容が聞けてとても参考になった。
- 他社事例をもっと多く深く聞いてみたい。専門的な相談もできれば嬉しい。
- 具体例を紹介いただきたい。
- どの企業も課題は共通しているので、そういった課題を解決できる場を提供してほしい。

回答数：12名(参画企業7社)

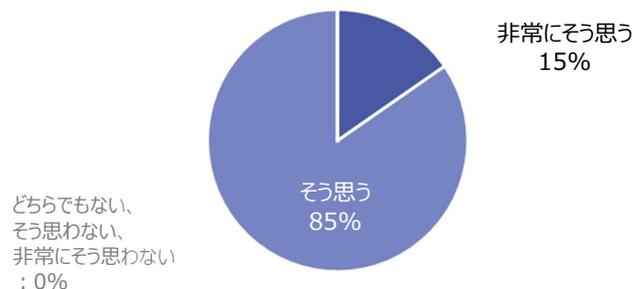
(参考資料) 令和6年度ワークショップのアンケート結果 (削減_再エネ)

- ディスカッションやソリューション紹介に対し参加者全員が「参考になった」と回答。「他社事例が聞いて勉強になった」との声もいただき参加満足度は高かった。

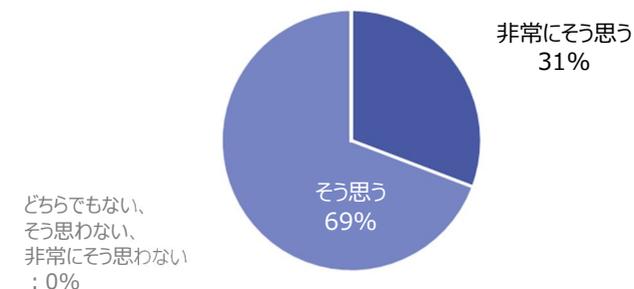
Q1.本日のワークショップの参加目的は達成できましたか？



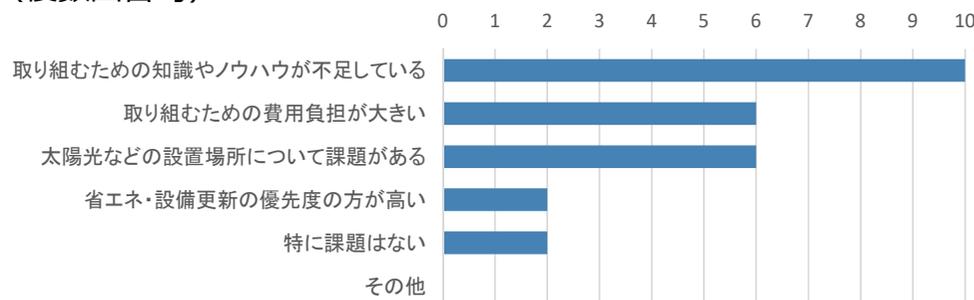
Q2.再エネソリューションの紹介は今後の再エネ導入および排出量削減の取組の参考になりましたか？



Q3.ディスカッションの内容は今後の再エネ導入および排出量削減の取組の参考になりましたか？



Q4.カーボンニュートラルの取組を行う上での課題をお聞かせください (複数回答可)



参加者のコメント

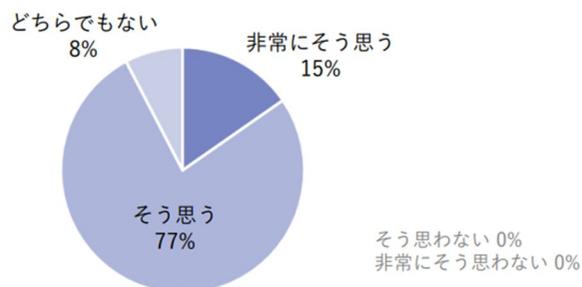
- 他社の取り組みが聞いて勉強になった。蓄電池の活用方法が勉強になった
- パネル設置を実際にされた事例(工夫や課題)が聞いてとても参考になった
- 個社の経済性についての実情報が大変参考になった
- こういった意見交換の場を(今後も)設けてもらえると嬉しい
- 太陽光以上の情報が欲しい

回答数：13名(参画企業8社)

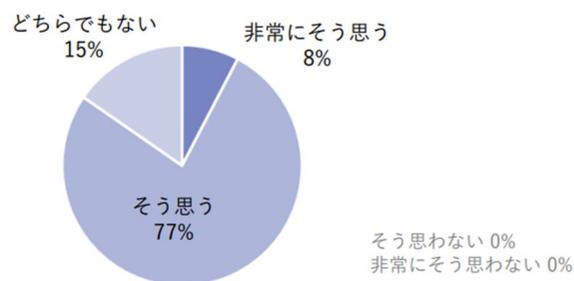
(参考資料) 令和6年度ワークショップのアンケート結果 (削減_補助金申請)

- ワークショップは8割以上の方から満足という高い評価を得られた。
- Day1-3全体に対しても有意義な内容だったとの声を多くいただいた。

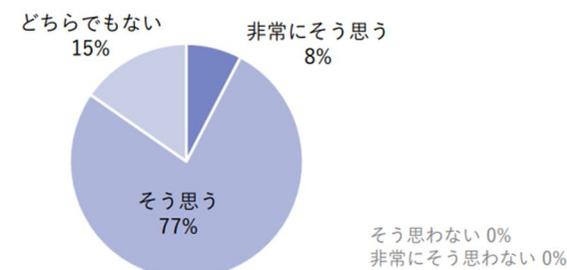
Q1. 本日のワークショップの参加目的は達成できましたか？



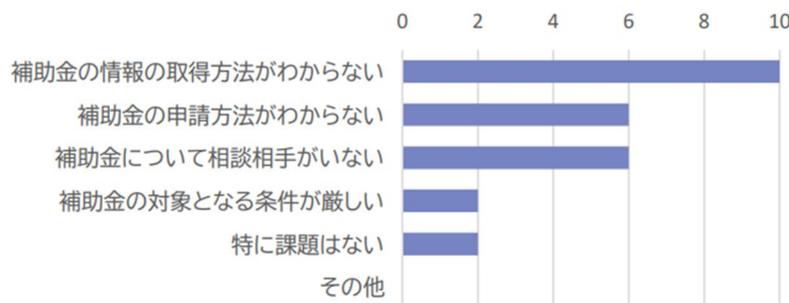
Q2. 今回の削減ワークショップ全体(合同WS 3回+個社支援 2回)を通して、満足度の高い内容でしたか？



Q3. ディスカッションの内容は今後の補助金活用や施策管理の参考になりましたか？



Q4. カーボンニュートラルの取組を行う上での課題をお聞かせください (複数回答可)



参加者のコメント

- 最新の補助金情報を漏れなく入手し最大限活用したい。
- 補助金は使用したいが手続きなどが難しく、過去に上手に運用できなかったため、今後は(事業者へ)相談したい。
- 採用PRに繋がる取り組みを是非行いたい。例えば「ひろしまCNビジネスプロジェクト」として採用イベントにブース出展するなど。採用に効果があることが広まれば、よりCNに注力される経営者様も増えるのではと考える。
- 実際に他社の会社を訪問してCNの取り組みを見る機会があると良い。
- 他社の現場改善も含めて事例を紹介していただきたい。こ

回答数：13名(参画企業8社)

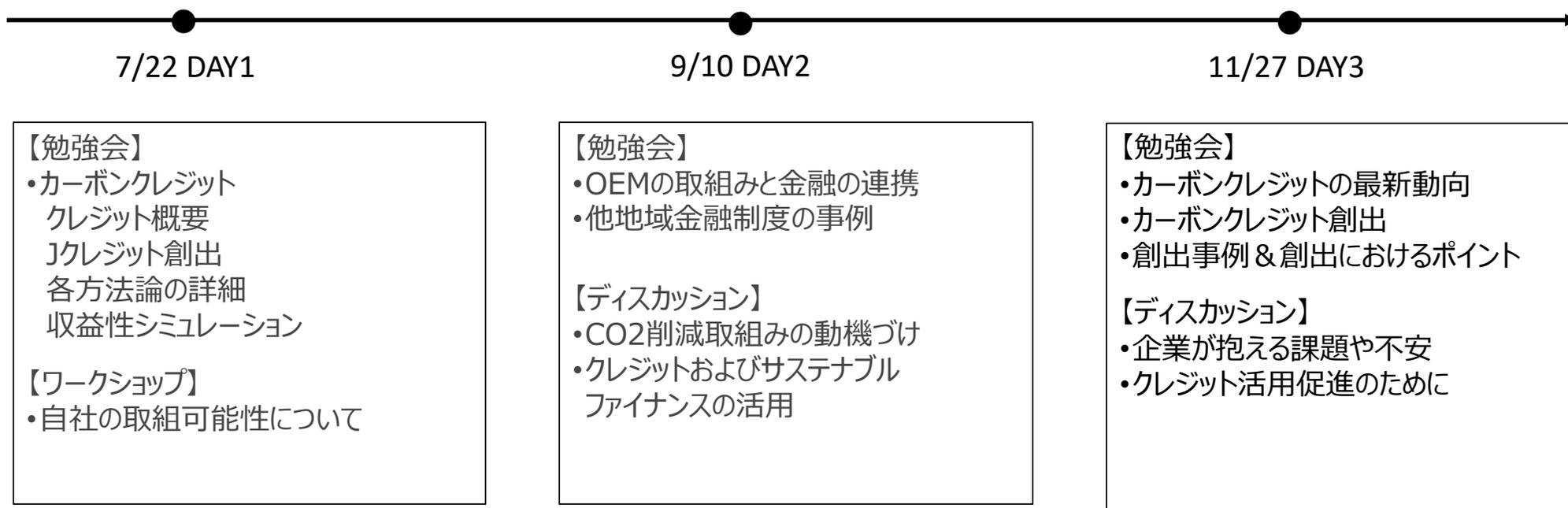
Appendix

1. CFP（見える化）算定ワークショップ[°]・実証
2. 削減ワークショップ[°]
3. 金融（動機付け）ワークショップ[°]

(参考資料) 令和6年度ワークショップの概要 (金融・動機付け)

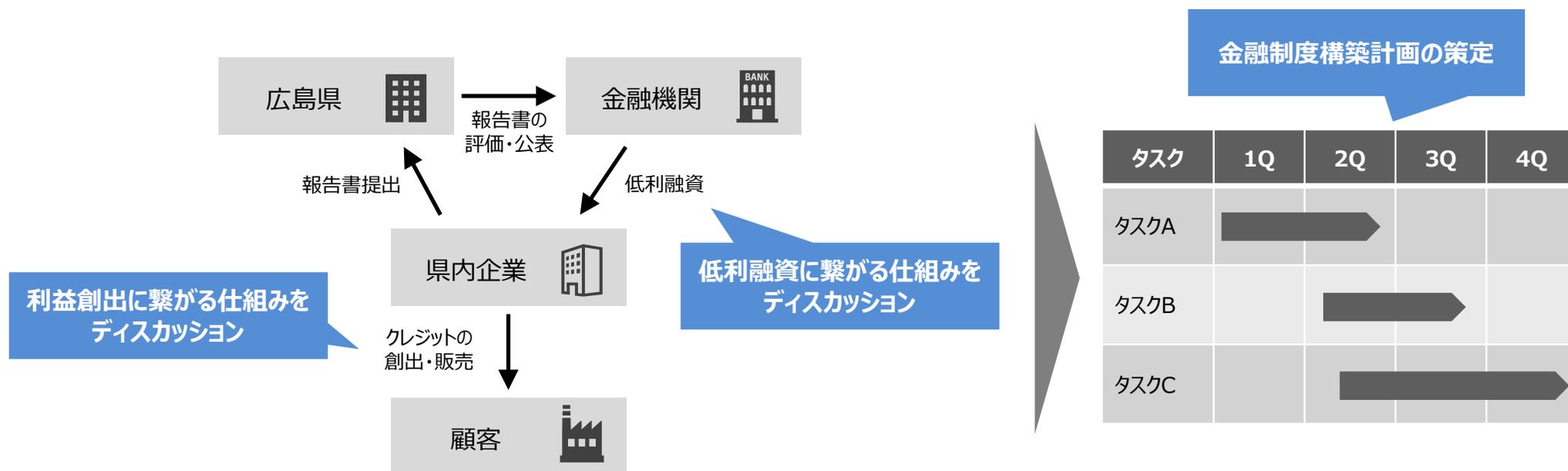
- 「金融」ワークショップでは、サステナブルファイナンスやクレジット制度のインプットを実施。
来年度において投資を促進させる具体的な仕掛けについて検討を進めることとした。

● 活動全体像



(参考資料) 令和6年度ワークショップの概要 (金融・動機付け)

- 利益創出、低利融資に繋がる金融制度について議論し、制度構築計画を策定
- お金に関する企業の声
 - ・ カーボンニュートラルに向けた取組みを推進しても、利益に結びつかない
 - ・ 投資やコストがかかる施策については、消極的にならざるを得ない



(参考資料) 令和6年度ワークショップのアンケート結果 (金融_第1回)

Q1 WSの感想			
No	項目	件数	割合
1	非常に満足	1	7%
2	満足	9	64%
3	どちらとも言えない	3	21%
4	不満	1	7%
5	非常に不満	0	0%
全体		14	100%

Q2 CN取組の意向			
No	項目	件数	割合
1	取組中	8	57%
2	目標・計画を策定中	5	36%
3	興味あるが未取組	1	7%
4	どちらとも言えない	0	0%
5	興味なし	0	0%
全体		14	100%

Q3 動機づけとなりうる取組			
No	項目	件数	割合
1	クレジット創出	2	11%
2	ファイナンス	0	0%
3	行政補助金	10	53%
4	価格転嫁	7	37%
5	その他	0	0%
全体		19	100%

Q4 クレジットの感想			
No	項目	件数	割合
1	PJ登録してる	0	0%
2	検討中	0	0%
3	興味あるが未取組	0	0%
4	どちらとも言えない	0	0%
5	自社の削減優先	14	100%
6	CN興味なし	0	0%
全体		14	100%

Q5-1 クレジットの課題			
No	項目	件数	割合
1	手続きが複雑	8	38%
2	コストがかかる	5	24%
3	経済メリットが低い	1	5%
4	自社の削減量に計上できない	6	29%
5	その他	1	5%
全体		21	100%

Q5-2 手続きが複雑の解決策			
No	項目	件数	割合
1	申請サポート	6	67%
2	プログラム型	3	33%
3	その他	0	0%
全体		9	100%

Q5-3 コストがかかるの解決策			
No	項目	件数	割合
1	申請費用の補助	5	63%
2	プログラム型	3	38%
3	金融機関サポート	0	0%
4	その他	0	0%
全体		8	100%

Q5-3 経済メリットが低い解決策			
No	項目	件数	割合
1	申請サポート	0	0%
2	プログラム型	0	0%
3	その他	0	0%
全体		0	0%

Q6 現在取り組んでいるもの			
No	項目	件数	割合
1	ボイラー	1	3%
2	ポンプ・ファン類の間欠運転制御	4	10%
3	インバーター制御	8	21%
4	照明設備	14	36%
5	EV・PHV	1	3%
6	太陽光パネル	11	28%
7	バイオ液体燃料による代替	0	0%
8	バイオマス固形燃料による代替	0	0%
9	マグネシウム溶解鑄造用カバーストック	0	0%
10	その他	0	0%
全体		39	100%

Q7 これから取り組みたいもの、興味があるもの			
No	項目	件数	割合
1	ボイラー	0	0%
2	ポンプ・ファン類の間欠運転制御	1	6%
3	インバーター制御	1	6%
4	照明設備	0	0%
5	EV・PHV	7	44%
6	太陽光パネル	6	38%
7	バイオ液体燃料による代替	0	0%
8	バイオマス固形燃料による代替	0	0%
9	マグネシウム溶解鑄造用カバーストック	0	0%
10	その他	1	6%
全体		16	100%

蓄電池の導入

(参考資料) 令和6年度ワークショップのアンケート結果 (金融_第2回)

Q1-1 マツダ様講演感想			
No	項目	件数	割合
1	非常に満足	3	21%
2	満足	10	71%
3	どちらとも言えない	1	7%
4	不満	0	0%
5	非常に不満	0	0%
全体		14	100%

Q1-2 京都銀行様講演感想			
No	項目	件数	割合
1	非常に満足	3	21%
2	満足	10	71%
3	どちらとも言えない	1	7%
4	不満	0	0%
5	非常に不満	0	0%
全体		14	100%

Q1-3 ディスカッション感想			
No	項目	件数	割合
1	非常に満足	2	14%
2	満足	11	79%
3	どちらとも言えない	1	7%
4	不満	0	0%
5	非常に不満	0	0%
全体		14	100%

Q1-4 全体感想			
No	項目	件数	割合
1	非常に満足	2	14%
2	満足	11	79%
3	どちらとも言えない	1	7%
4	不満	0	0%
5	非常に不満	0	0%
全体		14	100%

Q2 動機づけ(複数回答)			
No	項目	件数	割合
1	補助金	8	44%
2	ファイナンス	1	6%
3	価格転嫁	2	11%
4	排出量見える化	7	39%
5	金融機関との対話	0	0%
6	人材確保	3	17%
7	カーボンプレジット	1	6%
8	経営への影響の明確化	3	17%
9	社外へのPR	5	28%
10	その他	3	17%
全体		18	100%

Q3 投資状況			
No	項目	件数	割合
1	ファイナンス・補助金活用	1	9%
2	補助金活用	4	36%
3	自己資金のみ	6	55%
4	投資検討中	1	9%
5	投資検討無し	1	9%
6	その他	0	0%
全体		11	100%

Q4 投資課題(複数回答)			
No	項目	件数	割合
1	資金調達	0	0%
2	ノウハウ不足	12	60%
3	経済的メリット	5	25%
4	まずは費用掛からないことから	3	15%
5	その他	1	5%
全体		20	100%

Q5 サスファイへの意見			
No	項目	件数	割合
1	活用済み	0	0%
2	活用検討中	0	0%
3	活用してみたい	6	46%
4	ファイナンス検討無し	5	38%
5	興味なし	0	0%
6	その他	2	15%
全体		13	100%

Q6 サスファイフレームワークについて			
No	項目	件数	割合
1	良い取組、ぜひ活用したい	3	21%
2	活用したいが工夫は必要	1	7%
3	活用イメージわからない	10	71%
4	活用したいとは思わない	0	0%
5	その他	0	0%
全体		14	100%

Q7 クレジット・ファイナンス相談先の有無			
No	項目	件数	割合
1	はい 金融機関	2	15%
2	はい コンサル会社	0	0%
3	はい 電力会社	0	0%
4	はい 不明	4	31%
5	いいえ	7	54%
全体		13	100%

Q8 クレジット・ファイナンス相談先が欲しいか			
No	項目	件数	割合
1	相談先はある、セカンドオピニオンとしてほしい	2	15%
2	相談先がないため欲しい	2	15%
3	いいえ	9	69%
全体		13	100%

Q9 クレジット・サスファイ取組課題について			
No	項目	件数	割合
1	申請が手間、自社だけでは難しい	2	13%
2	相談先がない	1	6%
3	取組活用イメージが不明	5	31%
4	活用したことがない	8	50%
5	その他	0	0%
全体		16	100%

Q10 金融機関・自治体へ期待事項			
長期の助成制度			
国内企業の取組情報提供 情報共有 優良事例だけでなく幅広い情報			
自治体による目標設定・CO2削減の必要性提示			
自治体による踏み込んだ取組			
京都の事例であれば活用が進むと思う			
補助金のアナウンス			
自社利益につながる取組情報			

Q2 動機づけ その他回答
 ・サプライヤーとの連携
 ・顧客要求
 ・会社の利益につながる

Q4 投資課題 その他回答
 ・技術革新

Q5 サスファイについて その他回答
 ・必要になれば活用したい
 ・担当業務ではなく不明

回答数: 13名(参画企業8社)

(参考資料) 令和6年度ワークショップのアンケート結果 (金融_第3回)

- 第1～3回のワークショップを通じて、県内企業のカーボンニュートラルへ向けた投資意欲が高まった。
- また、投資の意識決定を行う上でクレジットやファイナンス制度を活用することについて関心を得た。

Q1. Day3の感想			
No	項目	件数	割合
1	非常に満足	0	0%
2	満足	5	71%
3	どちらとも言えない	2	29%
4	不満	0	0%
5	非常に不満	0	0%
全体		7	100%

Q3. 金融WS Day1～3を通じての変化			
No	項目	件数	割合
1	積極的に投資していくべきだ	1	14%
2	投資を前向きに考えてみたい	1	14%
3	投資に興味を持った	5	71%
4	意識に変化はない	0	0%
5	投資には後ろ向きになった	0	0%
全体		7	100%

Q2の理由
・事例により具体的に知ることができた
・カーボンクレジットについて理解が進んだ

Q3の理由
・興味なかったが、世の中の動向で考えないといけないと感じた
・CN達成に必要な、CSR活動を通じて企業価値を高める必要がある

Q2. どの内容が有意義か(複数回答)			
No	項目	件数	割合
1	カーボンクレジットの最新動向	3	25%
2	カーボンクレジット創出	4	33%
3	創出事例&創出におけるポイント	4	33%
4	ディスカッション	1	8%
5	いずれも有意義でなかった	0	0%
全体		12	100%

Q4. どのような支援策があるとよいか(複数回答)			
No	項目	件数	割合
1	ノウハウやメリットを専門家から学べる機会	4	33%
2	他社の成功事例について情報交換できる機会	4	33%
3	カーボンクレジットのプロバイダー等の事業者紹介	0	0%
4	カーボンクレジット申請におけるサポート、相談窓口	1	8%
5	カーボンクレジット申請費用の補助	1	8%
6	県内企業創出クレジットに対するPRサポート	0	0%
7	プロジェクト投資のための金銭的補助	1	8%
8	行政や大手企業による高値でのクレジット買取	1	8%
9	サステナブルファイナンスのような金融のしくみ	0	0%
10	その他	0	0%
全体		12	100%